

町章

(昭和12年制定)



「下田」の字を図案化したもの。
「田」を丸く、その上に「一」を出したのは町民が一つにまとまるという協調性を表したものです。

町民憲章

(昭和54年3月15日制定)

私たちは、清い奥入瀬の流れと若駒のいなか木崎野の緑に育てられた下田町の町民です。

私たちは、心から郷土下田町を愛し、先人の築いた歴史と伝統をたたえ、うるおいとまとまりのある町をつくるために、この憲章を定めます。

- 一、私たちは、恵まれた自然を大切に、花と緑の美しい町をつくります。
- 一、私たちは、つよい心と、じょうぶな体をきたえて、明るい町をつくります。
- 一、私たちは、きまりを守り、お互いに親切に合い、住みよい町をつくります。
- 一、私たちは、仕事に誇りをもち、楽しく働いて、豊かな町をつくります。
- 一、私たちは、学ぶ心と、考える力を養い、文化の香り高い町をつくります。

町の・花・木・鳥

(昭和59年8月1日制定)

町の花 「サツキ」

広く民家の庭などに植えられている。四季を通じて光沢のある緑の葉をつけており、清楚に咲く美しい花はわたしたちの心をとてもなごませてくれる。



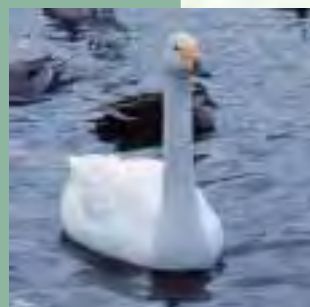
町の木 「イチイ」

主に東北、北海道に自生。古くから民家の生垣をはじめ、庭木、床柱などに利用されている。呼び名の「オンコ」はこの地方特有で、アイヌ語から出たものとされている。



町の鳥 「白鳥」

遠くシベリアから飛来し、冬を告げる代表的な鳥として町民に親しまれている。その大空にはばたく姿は、町の躍進を思わせる。



イメージキャラクター

(平成元年制定)

「しーもくん」



ハートピアしもだ

まちのイメージキャラクター「しーもくん」は、下田町が未来に向け、元気でいきいきとして、心豊かな理想郷・ハートピアになるようにとの願いを込めて、平成元年に制定されました。

「しーもくん」はまちの輪郭を表しており、まちの公共サインや各種印刷物、お菓子、ストラップ、しーもくんバスなど、町内外に向けたPRに大活躍しました。

位置・地勢

下田町は、青森県の東南部に位置し、古来より南部駒の放牧で有名な木崎野と呼ばれるなだらかな台地に位置する面積50km²余りのまちです。人口は約14,000人。年ごとに隣接する八戸市や三沢市のベッドタウンとして人口が増加しています。産業は第1次産業が中心ですが、野菜を中心とした地域特産物の流通促進、二次加工食品の開発も進んでいます。近年、交通の利便性により、企業の進出が盛んになり、現在は金属製品やパルプ、窯業などを中心に17の誘致企業が稼働しています。また、大型ショッピングセンターなどの出店により若い層の就業人口も高まっています。一方、まちの南部を流れる奥入瀬川には鮭が遡上し、間木堤には白鳥が飛来するなど自然環境にも恵まれています。自然保全を基本とした、豊かな観光資源の整備にも力を入れながら、農業、工業、商業のバランスのとれた開発が進められてきました。

しもだマップ

「まるかじりマップ」より

